

12月  
議会定例会

## 株式会社アルビオン第二研究所完成

## 2月より本格稼働へ

平成28年12月議会定例会が12月13日から16日までの4日間にわたり開催され、一般会計補正予算など上程された18案件について原案どおり可決されました。



## 行政報告

## ◆平成28年産米の集荷状況について

J Aあきた白神藤里営農センターの11月22日現在における集荷実績によりますと、30 kg単位での予約数量、77, 129個に対し、集荷数量は73, 850個(集荷率95.7%)となっております。今年、出穂期以降、おおむね気温・日照時間が平年を上回って経過、9月中旬

以降も、気温が平年を上回ったことから、ほ場間差は大きいものの、作況指数は104となりました。

また、1等米比率は93.1%と昨年の95.6%を下回り、J Aあきた白神管内の平均94.1%に対して、1.0%ほど低くなっております。この品質低下要因の大半は、カメムシによる斑点米であると考えられておりますので、航空防除協議会等で対策を検討して参ります。

## ◆平成29年産米の需要量に関する情報について

11月28日に国から都道府県別の生産数量目標が示されました。それによりますと、国の平成29年産米の生産数量目標は、今年と数量より8万t少ない、735万tとなりました。秋田県には、前年比1.1%減の408,644tが配分され、面積換算値では昨年より776ha少ない、

71,317haの配分となりました。これを受けて、各市町村への配分は12月26日に示されることになっておりますが、生産数量目標については、町村間での出入作調整の減少分も考慮する必要がありますので、来年度の町への配分は、面積換算で今年当初配分より20ha少ない、420ha前後の生産数量目標になるものと思われまます。今後、情報が明らかになり次第、町農業再生協議会で協議・検討し、協議会の臨時総会で配分方針を決定することになります。

## ◆畑作等の生産状況について

11月末現在、ネギの生産数量は目標の16.9t、5,049千円に対して、8.5t、3,254千円となり、生産農家の減により生産量が減少し、青果物全体では生産目標数量57.1t、44,042千円に対して、47.0t、35,893千円と目標の81.5%にとどまっております。今後、出荷が始まる山うど、アスパラガス、きのこの売上に期待しております。7年目の出荷となりましたリンドウは、採花面積が314aで、採花本数が596,560本、販売額は24,801千

円となりました。今年は、首都圏を始め7市場に出荷しており、市場関係者を招いた実績検討会では、色の鮮やかさや日持ちなど、高い評価をいただきましたが、平均単価は低めとなっております。今年は、気候の影響で出荷が早まり、7月中旬から8月初旬に全国的に出荷のピークを迎えたため、単価の下落が続いておりました。その後は、旧盆単価は持ち直したものの、出荷量の不足から販売額が伸びない結果となりました。一方では、10月中旬に例年になく高単価となりましたが、昨年と比較すると年間平均単価は17%ほど低い水準に留まりました。

## ◆ニホンザルによる農作物の被害防止について

鳥獣被害対策実施隊による週末や祝祭日の巡回により、13頭捕獲しており、今後アンケートを行い、被害状況の把握に努める予定であります。ツキノワグマについては、ブナの結実状況が皆無と発表されており、県内各地でクマの出没情報が多く寄せられております。当町では、昨年は捕獲の実績がありませんでしたが、今年は延べ12基の檻を設置し、8頭を捕獲しております。

## ◆木の駅事業の実施状況について

出荷登録者は13名で、4月から11月末日まで未利用材を受け入れしております。今年、累計883㎡の出荷があり、415千円分の地元商店で使える利用